



日	曜	5月（皐月） 今月の行事予定
1	木	ノー部活デー
2	金	授業参観日、PTA総会、学年部会
3	土	憲法記念日
4	日	みどりの日
5	月	こどもの日
6	火	振替休日
7	水	2,3年実力テスト①～⑤ ⑥集会、作文
8	木	尿検査1日目 ノー部活デー
9	金	
10	土	
11	日	
12	月	⑤⑥2年大人としゃべり場 ⑤⑥1年茶摘み
13	火	
14	水	3年内科健診14:00～ ⑤⑥1年茶摘み（予備日）
15	木	未来塾3年スタート ⑤⑥3年卒アル写真撮影 ノー部活デー
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	⑥委員会・清掃分担
20	火	尿検査2日目
21	水	四電アンサンブル鑑賞会（神領小と合同）午前
22	木	歯科健診14:00～ ノー部活デー
23	金	英検15:00～
24	土	
25	日	
26	月	3年大島青松園交流学習
27	火	
28	水	
29	木	県教委計画訪問
30	金	
31	土	

6月行事予定		
日	曜	行事等
3	火	眼科健診
4	水	耳鼻科健診
7	土	ブロック総体
8	日	ブロック総体
14	土	ブロック総体
15	日	ブロック総体
		27日～29日 部活中止
		6月30日～7月2日 期末テスト



1年生 防災学習を終えて		
【〇〇 〇〇】 人と防災未来センターへ行き学んだことは、「知っていること」、「できること」は別で避難訓練参加、体験学習、疑似体験することの大切さです。また、阪神淡路大震災では多くのボランティアが活躍したことや、訓練などで体験していないといざというときには行動することができないことを学びました。語り部さんの話を聞き、もしもの時に備えてしっかり準備をしたいと思います。		
【〇〇 〇〇】 阪神淡路大震災で被災した方の話を聞きました。地震によって起こった、火災や建物の倒壊した当時の映像を見るととても怖かったです。そんな中、中学生のボランティアが多くの人々を助けている姿を見ると、実際に僕たちはボランティアができるのだろうかという不安ができました。館内には、たくさんのパソコンがあり被災した人々へのインタビューを見ていると、震災の深刻さが伝わってきました。		
【〇〇 〇〇】 防災学習をとおして、今住んでいる場所は過去にどんな災害に遭ったのか、南海トラフではどんな災害が想定されるのかを知りたくまりました。阪神淡路大震災では、午前5時46分の早朝に震度7の大地震が起こったとき、中学生がいろいろな場面で活躍したことを知り、そんな中学生になりたいと思いました。また、地震は1回だけでなく2回3回とあることを知りました。今回の学習で、これから起こるかもしれない地震に備え、避難訓練など真剣に参加したいと思います。		
【〇〇 〇〇】 防災未来センターで学んだことは二つあります。一つ目は、「誰かの一声」です。語り部さんの話から、地震が起きたときは冷静になって、救出や初期消火を行うことの大切さを知りました。二つ目は、地震が起きて生き埋めになったとき、家族と隣人を頼ることを学びました。普段からあいさつなどのコミュニケーションをしっかりととり、隣人との関わりを深めて行きたいと思いました。		

神山の桜吹雪とともに、葉桜と藤の花が見頃となりました。鮎喰川では、カジカガエルの心地よい鳴き声が心と身体を癒やしてくれます。4月14日からの家庭訪問、お世話になりました。お子様の体調や勉強についてたくさんお話を伺うことができました。今後の支援や指導に役立てることができ貴重な時間となりました。ありがとうございました。

5月2日（金）には授業参観、PTA総会、学年部会を予定しています。たくさんのご来校をお待ちしています。2年生修学旅行は、62号で特集します。（学校長）

3年生 防災学習を終えて		
【〇〇 〇〇】 当時の様子を聞き、改めて地震の恐ろしさを知りました。中学生が、亡くなった母親にしがみついていたという話は聞いていて胸が苦しかったです。また、自分と同じくらいの年齢の人がたくさん亡くなっていることも知りました。イザというとき頼りになるのは「自分」という言葉を聞いて、普段から地震が起こったときのことについて調べて備えておきたいと思いました。そして、自分の住んでいる地域は地震が起こったとき大丈夫なのかなど知ること大切だと話してくれました。		
その後の見学によって当時の悲惨さがより伝わってきました。実際に地震を経験した人の映像が流れていて、たくさんのことを学ぶことができました。今まで知らなかった地震のことについて詳しく知る機会となつて、とても良かったです。		
これからも災害のことについて学んでいき、語り継いでいけるようにしたいです。また、避難訓練、体験学習、疑似体験などにも積極的に参加していきたいです。		
【〇〇 〇〇】 人と防災未来センターに行って学んだことは、「誰かの一声が大事」ということです。誰かの一声があると生き埋めになった人を協力して助けることができるからです。他にも、全国から137万人のボランティアが来てくれたと言っていました。ボランティアは中学生が多かったと言っていたので、この先大きな災害が起きたとき、ボランティアとして手伝えるようにしたいです。そして、地震が起きて91日後に水道が通るようになったと聞いたので本当に大変だったんだと改めて理解できました。		
センターの中を見学していると当時そのままの時計や震災後の写真などがたくさんありました。阪神淡路大震災では最大震度7で、家具類の転倒や落下で多くの方が亡くなり、家具の固定は大事だと分かりました。40年以内に南海トラフ地震が起こる可能性が90%なので、今のうちに避難できる場所を確認したり、防災グッズなどを準備したいです。自分の住む町のことをもっと知り、減災などに協力していくことも大事だと分かりました。		
【〇〇 〇〇】 語り部の方の話を聞いたり、展示されている写真を見たりして、思っていた以上に阪神淡路大震災について知らないことが多かったことを実感した。お話の中で、災害時は中学生のボランティアが一番活躍したと聞いた。私たちと同じくらいの年齢の人たちが・・・と考えると、感銘を受けた。また、電気やガス、水道が止まったと聞いた。それらが止まった生活を考えると恐ろしくなった。語り部の方の「知っていること」と「できること」は違う」という言葉が印象に残った。これから起きる災害において、どう動いたらよいのかを知るだけでなく、訓練などで体験し、備えておきたいと思った。		
展示された写真の中で、災害で両親を亡くし、一人取り残されてしまった4歳の少女の写真が強く印象に残った。その写真を見たとき、とても胸が痛かったし、自然災害の悲惨さを改めて知ることができた。また、今の私たちの生活を当然のものだと思わず、今日学んだことを生かし、これから起こる災害に備えようと思う。今日の学びを身のまわりの人にも共有していきたい。		

